EARTH MANUAL

アースアートのトリセツ

池田一
ICHI IKEDA

TPAF

EARTH ART MANUAL

004 私の地球は丸くない！あなたと私への質問

第1章 水

11 The United Waters @ サンタフェ、USA

29 水駅伝 @ 万之瀬川、鹿児島

61 Water Blooming @ メラノ 、イタリア

81 天水の島・円水の塔 @ 屋久島、鹿児島

115 水之幸福大移動 @ 高雄、台湾

133 水主共同体 @ 台北、台湾

151 地球の家 @ 木口屋集落、鹿児島

第2章 人

「アースアート３部作」の第一弾／ EARTH ART MANUAL「アースアートのトリセツ」

CONTENTS

第3章 都市

Floating Earth 漂う地球 @ サンパウロ、ブラジル 179

WATERPOLIS @ デリー、インド 199

不忍・緑・五景 @ 上野不忍池、東京 229

「未来の方舟」プラン募集案内 334

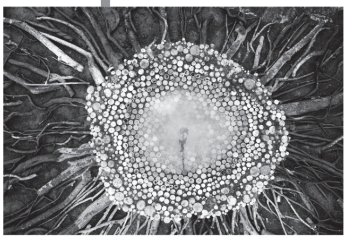
掲載作品データ 338

第4章 大地

大地の本 @ 千葉ニュータウン 267

阿蘇アースアートミュージアム @ 熊本 283

Future Compass @ ロイヤル植物園、カナダ 307



発行日：2019 年 3 月 15 日　発行所：TPAF（東京創造芸術祭内 出版事務局）

私の地球は丸くない！

あなたと私への
６つの質問

きしみ音が日増しに増大する。
空を見上げると、異常気象の連なり。
山に近寄ると、集中豪雨、洪水、山崩れ。
海に目をやると、マイクロ・プラスティックの汚染の流れ。
大地に立つと、巨大地震と、行き場がない。
自然環境から離れて、人の営みに身をよせると、
きしみ音は体の中にまで侵入してくる。
分断、差別、そして他人が我が物顔に内にのさばる。
地球環境の危機は、外に内に広がる一方 ---。

1

Q: この本のテーマは、「地球環境の危機に立ち向かう！」と言うことですがー。政治や経済を動かす権力構造から見放された、普通の人にとって、何が今出来るのかー。ただ諦観に追いやられて、毎日が窒息気味では困りもんだ。ゆったりと吸う酸素が必要なんです。アートには、何か未来を開く予感がするので、これは共に考える、そして行動する必要がある。あなたにとって、アートの可能性とは、何ですか？

ICHI: 私が出すのは、答えではない。政治や経済が遠くにあって、思うに任せない、そんな日常的な実感の中で、共に考えるキッカケというか、場が欲しい。生まれたての赤ん坊は、まだ格差社会で分断されてない、平等な存在ですよ。そんなフィールドがそばに現前して、誰でもが立ち入り可能な、そんな場所が必要なんです。そこに、アートの役割があります。

ICHI: 地球環境というフィールドは、自分の外の遠くにあると思っている人が少なくないでしょう。そこで、地球儀とか世界地図を、ひとまずしまって欲しい。最近のニュースでは、ブラジルの南東部で鉱山のダムが決壊して、川が赤褐色の濁流と化して、犠牲者が増大した。これは、自然災害でも、単に事故で片付けるわけにはいかない。原因はもっと根深い、格差と貧困による環境条件が根っこにある。地球環境というのは、自然環境と人間環境とが絡み合った問題で、地球儀がなければ、地球の裏側の惨事も、ごく身近なことに思えてくる。地球環境の危機というのは、一人一人にとって、ものすごく身近な、そして誰もが平等な視点で考えなけれならない問題になってきた。権威や利害から自由である、縛られない、本来のアートのフィールドと重なるんです。

ICHI: 誤解しないでください、何もアート全般のことを言ってるのではない。「地球環境の危機に立ち向かう」ことの出来るアートのフィールドがあるわけで、それがアースアートというフィールドです。自然環境と人間環境の交差点に突っ立ってるんですよ、いま敢然とー。

2

Q：かなり前から、ギャラリーや美術館を飛び出して、砂漠や草原といった自然の中でのアートはありましたね、ランドアートとかアースワークとか言ってー。しかし、それらは大きな動きにはならなかった。「地球環境に立ち向かうアースアート」は、何が違うのか、いっしょに見てとることが重要でしょう。どうですか？

ICHI: 参考になりますよ、この本は実に先見的で刺激的だ。米国のミネソタ大学出版局から出版された『アースアートの倫理学』という本です。そうです、1960 年代に、マンハッタンから飛び出して、自然環境の真っ只中で、大掛かりなアートワークを展開した。それから、６０年が経ったいま、「アースアート」の視点で、その歴史を総括した、非常に貴重な書物です。要約すると、

自然環境を人間本位な目で加工できるとした時代から、地球環境問題がクローズアップされてきて、当然「自然と人間の関係」のあり方を提案するアートも変わってきた。そして、この本の結章としては、「地球に倫理的に向き合うこと」となるわけで、その代表的なアーティストが、池田一だと論じている。その書物の評者は、ズバリ断言してます。「標準的なアートの歴史では、1960 年代の初期のランドアートやアースワークから、大阪出身のアーティスト・池田一らのエコ・アートへのシフトについて、記述するだろう」、と。実は、アースアートのリーディング・アーティストは、太平洋を隔てた場所にいるんですよ。

ICHI: なぜだ、と思います？ 一言で言えば、水のアーティストですよ。水を表現メディアとして使ってる人は、世界的に珍しい。どうしてかって？ それは、手に負えない、人間にとって制御不能なものだからですよ。土、樹木、石、金属類など、人間は思うように加工してきた歴史がある。どこまでも、人間本位のアートなんですよ。それに対して、水は制御出来ない分だけ、自然と人間の共生のあり方に向き合うことになる。これは、全く新しい文化観でしょう、共生の未来に向き合ってるんですから。

Q: 水のもつ重大さは、わかってます。被災地で、断水した時の経験を持ち出すまでもなくー。最近、「水関連の病気で、８秒に一人の割合で、子供が死亡している」と言う情報を耳にして、戦慄しました。アースアートにとって、水は何ですか、何だか重要なヒントがあるように思うのですがー。全ての人にとってですよ。

ICHI: 水の惑星ですよね、我々が生存してるのは。水危機の問題、水不足、水汚染、水戦争など、世界的なレベルでの深刻な問題が山積みです。世界水フォーラムが開催されるのも、当然でしょう。その第３回目が、京都を中心に開催されて、私も当然参加しました。世界から何万人と集まる会議です、各界から膨大な数の報告、そしてディスカッションが行われる。しかし、非常に重要で緊急な統計データが提示されて、その時はなんだかわかった気がしていても、一歩京都の街に出ると、そこから発する情報源の方が圧倒的でね。グラフや数字などはすっと頭の隅に行ってしまう。そんな経験は、身近に誰もが持ってるんじゃないですか。
そこで、アースアーティストとして、「80 リットルの水箱」を展示したんですよ。頭で整理するのではなくて、目に焼きつくように。

ICHI：一人の人が１日生活するのに、どれぐらいの水が必要だと、思います？ 朝起きてから、寝るまでですよ。80 リットルぐらいあれば、まあ標準的な生活が送れる、と言われてます。水は生存に不可欠な必須のものだから、いわば生存のための基本的権利と言えるでしょう。ところが、地球の人口の４分の３は、50 リットル以下の水しか手に入らない。原因は、気候変動と人口増大だと言われています。この水の惑星は、慢性的な水不足状態で、喘いでいるというかー。「80 リットルの水箱」は、その事実が否応なく目に飛び込んでくる、アートならではの力技です。

ICHI：「80 リットルの水箱」は、１日使用する水の量をチェックする目安箱です。国連の環境セミナーで講演した後、聴衆から「一家に、一箱あるといいですね」との発言がありました。また、川口市の中学校で、それぞれに自分の「80 リットルの水箱」を作るワークショップをやったら、93%の学生が水に対する意識が変わった、との報告です。これは端的に物語ってるでしょう、環境アート教育がいかに緊急に必要であるかということを。

4

Q: 分断、格差社会は、ますますひどくなる。「世界ではたった８人の大富豪が世界の富の半分を所有している一方で、世界の５人に１人が１日1.25ドルで生活していると言う貧困状態にあります。あなたはそれをどう思いますか。そしてどうすれば良いと思いますか。

ICHI: 格差の問題は、深刻です。水の場合で言えば、ケニアの山岳地帯に住む人たちは、1日たった5リットルで生活せざるを得ない、それに比べて、芝生への散水や洗車などで1日1000リットルも使う人も少なくない。実に、200倍もの格差ですよ。これは、政治的交渉や経済援助といった従来のやり方では解決できない所まで達している。陳情行為やアイデア募集といった通常の手段では、埒があかない。根本的な発想の転換、シフトがないと、もう硬直化した世界には、火に油を注ぐようなことにもなりかねない。

ICHI: Waterhenge ウオーターヘンジって、聞いたことがありますか？Stonehenge なら、ご存知でしょう。イギリスにある世界文化遺産で有名な環状列石のことですね。しかし、支える石と支えられる石とが絶妙に組み合わされた組石で、権力的な主従依存構造を連想させて、創り手からすると性に合わない。そこで、私の一貫した流れから浮上したのが、ウオーターヘンジです。それぞれが自立した主体としてありながら、繋がっている一、relaxed network とでも言えばいいか。1980年代のはじめに、演出家廃業宣言した、支配・演出・制御を嫌う生き様の延長でしょうか、これが、人と人が繋がる新しいネットワークへの基本的なスタンスです。

ICHI: そのスタンスで展開しているのが、「水主ムーブメント」です。地主というのは土地という私有財産の所有者だけど、水主は誰も所有出来ない水という公共財を守る人のことです。「水主」に登録するには、３つの条件下での写真が必要でしてね、「水と顔」、「水と手」、「水と足」の３点写真で、それに水主同意書を付けて一、大層なことじゃないんです、「水を次の世代に送り届ける」という意欲さえあれば。その「水主」第１号はもちろん私ですが、今までに１千人近くは集まってます。アースアートならではのネットワークと言えましょうか。あなたも「水主」になりませんか。

5

Q：　地球環境の危機はわかるとしても、普段の日常生活の中から、どのように地球環境まで目を広げられか、が問題です。日本は一人あたりのビニール袋の消費量が世界で第２位なんですって、新聞で見ました。いつも布製のバッグを携帯して、買い物をしてもビニール袋をもらわないようにしています。でも、こんな些細なアクションで、地球環境は改善するとは思えません。どう思いますか？

ICHI: 地球環境を身近に感じることが出来るのは、水を通じてでしょう。そう、海岸に打ち上げられた膨大な量のプラスチック・ゴミを目にすれば、いま深刻な問題になっているマイクロプラスチックによる海洋汚染の問題が足元から立ち上がってくる。海流によって、地球環境の問題が、自分の足元まで打ち寄せてきているってことです。

ICHI: アートの前に、イラストレーションがあって、見えないところに光を当てて描き出すって意味でー。世界地図と人体解剖図が究極のイラストレーションだって話がありますが、その絶対的価値は誰しもに共有されてない。いま、一人一人が足元から地球という見たことのないものを描きなおす必要がある、そのことをマイクロプラスチックなどの地球環境の汚染問題は教えてくれてるんですよ。地球環境の危機意識は、それぞれから見る地球が異なってるというところから出発する他ないわけです。

ICHI: 我々の中に巣食ってる公共の考え方が問題です。国家という枠組みは、様々な形での我国第一主義に見られるように、全く誰もが平等に存在し得る公共的なフレームではなくなった。町おこし、地域振興と言っても、所詮は他の地域との差別化、競合化であって、公共的な広がりからは逆向きにすら思える。最近、いろんな場所での野外アートフェスティバルが盛んで、アースアートと間違える人がいる。ご当地アート、アート盆踊りといった感じで、地元の優越感を競うイベントの域を出ることは難しいでしょう。そうすると、国家・宗教・民族の差異を超えて、未来に向き合う公共性といえば、地球そのものになるでしょう。だから、これからのパブリック・アートは、アースアート以外にないと断言できるのです。

ICHI: 何より重要なのは、方法論やアイデアではなくて、未来に対するビジョンでしょう。名古屋で、2010 年に COP10(生物多様性条約第 10 回締約国会議) があった時のことです。その時の、カナダの議長とは、国連での環境セミナーで同席だった関係で、関心があったのですが、彼は「日本の里山」の重要さを強調してました。自然環境と人間環境の交わる境界領域で、人間の営みと自然との共生が息づく、里山ですよ。人間環境と自然環境が歴然と分離してる欧米の空間意識とは、根本的に違ってくる。災害列島と言われる分、他にはないビジョンがあるのです。

Q: それぞれの足元から地球を捉え直す、アースアートの必然性、その役割はわかる気がします。しかし、我々の足元、日本の状況を考えると、アースアートの展開は、少なくとも日本においては、以前のような野外での大規模プロジェクトの実現が時代的・状況的・経済的に厳しくなっていると考えます。しかし、空間的なスケールの大小というものはそれほど重要なものではないとも考えますので、どのような他の可能性があるでしょうか？もちろん、誰しもが考えなければならない問題ですがー。

ICHI：2011 年に、フィンランドのポリ美術館で、世界の環境アートの歴史を回顧する「ECO-ART」展が開催されたのも、重要な参考例です。故人も含めて、１６人のアーティストが選抜されたのですが、驚いたことに私以外は全て欧米人なのです。ところが、私の作品『五輪の浮島』がポスター、カタログの表紙に、それに私の特集まで組まれて、最重要なアーティストの扱いなんです。世界的にやっとわかってきたんでしょうね、「地球に倫理的に向き合う」、共生的なアートが未来には必要だって。日本の風土ゆえに、生まれた表現なんですね。

ICHI: 未来のためのアートですから、何も完結した大掛かりなものを作る必要はない。未来への確かな階段のようなものですからね。私のアースアートは、自然素材を使ってますから、リサイクルか、自然消滅ですね。だから、作品という概念はむしろ邪魔ものです。あるのは、今後の展開に使う「80 リットルの水箱」のようなツールか、連綿と続く「水主」のようなムーブメントです。完結した作品万能主義は、かえって手かせ足かせになる。自分の足元と、どこに向かうか、起源と消息がわかれば、充分にアースアートたり得ます。

ICHI: 私の足元から広がる地球は、どう見ても丸くない。それぞれの足元から見える地球は、全て違ってて当然です。その認識に立った時、一人一人が「自分の地球」に責任と役割が立ち上がってくるのです。だから、一人一人の「自分の地球」と繋がりたい。

ICHI: そこで、あなたに提案です。**あなたから見える「未来の地球」に向かう「未来の方舟」を想像し、構築し、提案してください。**「アースアートのトリセツ」を通じて、出現した次なるムーブメントです。 （P. 334 を参照ください）

第1章

水

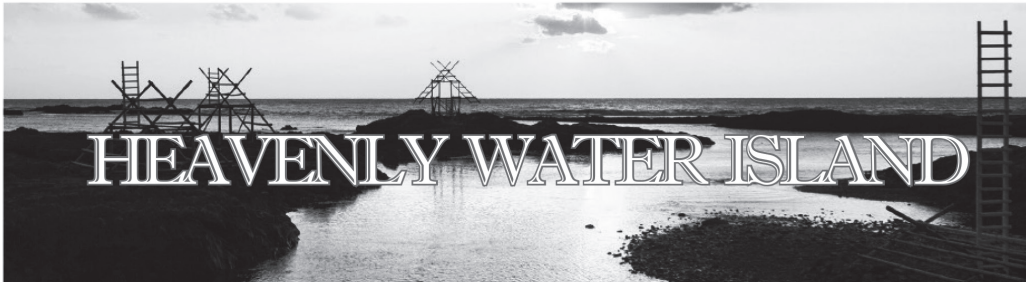
多分、他のどのアーティストよりも、
池田一は水を表現媒体として使用し、
この制御不可能な物資で、
全く新しい言語を創造している

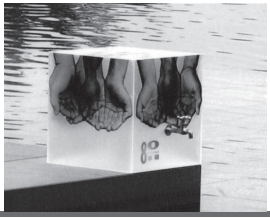
ドミニク・マゾー Domonique Mazeaud
BREAKTHROUGH Vol.11, 1986 ニューヨーク

THE UNITED WATERS

WATER EKIDEN

WATER BLOOMING


HEAVENLY WATER ISLAND



80 リットルの水箱

あなたは、１日にどれぐらいの水を使用してますか？

先ずは、朝起きてから、寝るまでの、水を使うシーンを挙げてみる。
水を飲む、洗顔、歯ブラシ、手洗い、トイレ水洗、料理、食器洗い、洗濯、風呂・シャワー、等々。これらの基本的な生活を営むのに使用可能な水の量には、世界各地で極端な差異がある。データによると、「ある程度の生活水準を維持するには、１日最低８０リットルが必要だ。しかし、世界人口のほぼ４分の３が、１日に５０リットルを確保するのがせいぜいである。ケニアの田舎では、１日にたった５リットルで賄わなければならない。一方、アメリカ人の中には一日１０００リットルもの水を使用している人がいる。巨大な使用量の大半は、芝への散水と洗車のために使われている。」ちなみに、日本人は３２４リットル使用しているという数字がある。世界的な水不足、その極端な格差に対して、重要なのは、「一人の人が１日生活するための基本的権利としての８０リットル」という認識である。

どのように、世界的な水不足の問題を訴えますか？

2003 年 3 月、京都を中心に開催された「第 3 回世界水フォーラム」には、世界中から 2 万人以上の人が集まり、21 世紀に直面している様々な水の問題に、未来に向けた協働的な活動を願って、各種のフォーラムが開かれた。膨大な調査資料、統計データが氾濫する中で、池田一はアーティストとして目に見える形で提示するために、「８０リットルの水箱」を、京都の国際会議場に展示した。折しも、イラク戦争が勃発して、世界水フォーラム発行の「水フォーラム新聞」でも大きくニュースに取り上げられた。その掲載記事の写真が「８０リットルの水箱」の写真で、「彼らの手の中に、未来を！」というキャプションがつけられた。調査資料や統計データは膨大で頭に残らない場合が多いが、「８０リットルの水箱」はいったん目にすると記憶に残りやすい。アースアーティストの責務がここにある。

日常生活の中で、水の問題とどのように取り組みますか？

2008 年 5 月、ニューヨークの国連本部で、国連環境計画主催の環境セミナーの壇上に、池田一はいた。地球環境問題を考えるパートナーシップに、世界から７人のアーティストが選ばれ、池田一はアジア・オセアニア代表として、スピーチを行った。混迷する環境問題を「水の眼 **Water's-eye View**」で捉える必要性を訴え、「８０リットルの水箱」のことにも触れた。スピーチが終わった後の、観客席の高校生の発言が注目を集めた。「一家に一箱、８０リットルの水箱を置いたらどうでしょう？」。１日どれだけの水を使ったかを自覚し、節水するための目安箱になるという提案である。実際に、一人一箱を作るという試みも行った。2009 年、埼玉県の川口西中学校１年生 136 人が、自分のための「８０リットルの水箱」作りに挑戦した。その過程で、91% の生徒が水に対する意識が変わったと答えた。

あなたも、「８０リットルの水箱」を作って見ませんか。

８０リットルとは、43cm 立方です。目安箱なので、実際に水を入れる必要はありません。（P. 336 参照）

SANTA FE

水
戦争

ひとつ
の
河川に

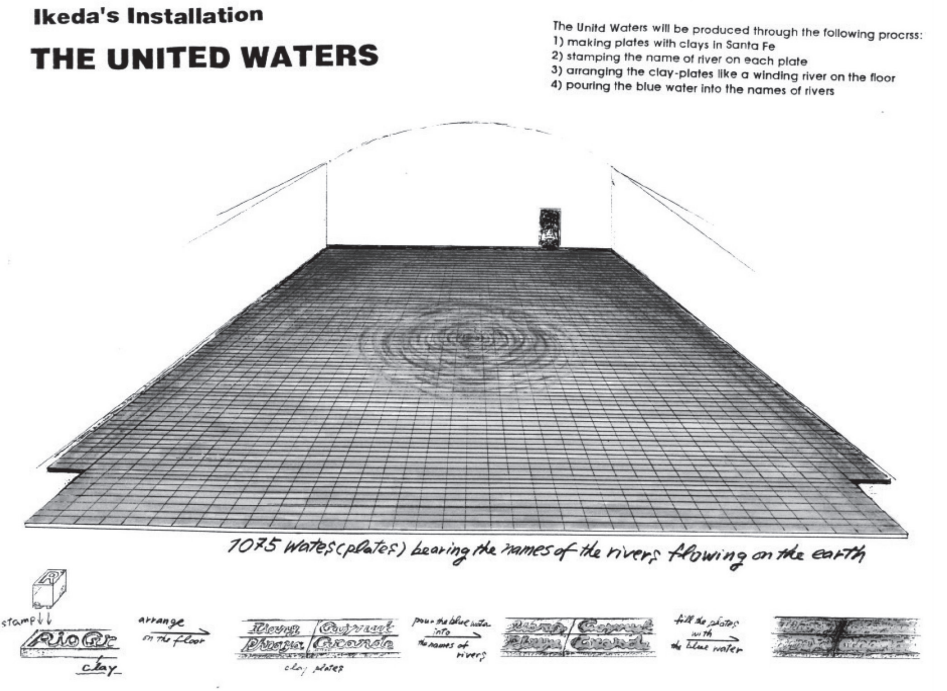
エコ
アクティ
ビズム

水
連合

世界
河川

脱
国境

NEW MEXICO



initial plan of "the United Waters"
Center for Contemporary Arts of Santa Fe, New Mexico